

<b>教育相談</b>		<b>講義</b>	<b>非常勤講師 音山 若穂</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>教職科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>25200205</b>	

### 1. 授業のねらい・概要

教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けることを目的とする。

### 2. 授業の進め方

前半は講義形式で、教育相談の基本的な考え方や基礎理論の講義、生徒や学校をめぐるさまざまな今日的課題、学校内外における教育相談の実際について解説する。続いてカウンセリングの諸技法、特に開発的技法について、スキルを身に付けるための授業を行なう。さらに、以上の知識を活かしながら教育相談の計画の立て方と進め方についての演習を行なう。

### 3. 授業計画

<p>1. 学校における教育相談の意義と課題 教育相談とカウンセリング【教育相談の意義と理論】</p> <p>2. 教育相談における校内での組織的取り組み【教育相談の展開】</p> <p>3. 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携や意義【教育相談の展開】</p> <p>4. 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念【教育相談の意義と理論】</p> <p>5. 学校教育におけるカウンセリングマインド 自己概念、自己肯定感・有用感【教育相談の方法】</p> <p>6. 生徒の不応答や問題行動等のアセスメント【教育相談の方法】</p> <p>7. 生徒の諸課題に対する発達に応じた相談の進め方ーいじめー 今日のいじめの実態【教育相談の展開】</p> <p>8. 生徒の諸課題に対する発達に応じた相談の進め方ー不登校ー 不登校の実態【教育相談の展開】</p>	<p>9. カウンセリングの基礎技法ー構成的グループエンカウンターー【教育相談の方法】</p> <p>10. カウンセリングの基礎技法ーピア・サポーターー【教育相談の方法】</p> <p>11. カウンセリングの基礎技法ーストレス・マネジメントー【教育相談の方法】</p> <p>12. カウンセリングの基礎技法ーリスニング・スキルー【教育相談の方法】</p> <p>13. カウンセリングの基礎技法ーアサーショントレーニングー【教育相談の方法】</p> <p>14. 教育相談の目標の立て方と進め方の実際ー生徒への対応ー【教育相談の方法・展開】</p> <p>15. 教育相談の目標の立て方と進め方の実際ー保護者への対応ー【教育相談の方法・展開】</p>
--	--

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布資料等を使って復習しておく。さらに、課題についても振り返っておく。なお、これらの準備学修には、2時間以上が必要である。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時間の課題については、確認後、次の授業時に解説を行なう。

### 6. 授業における学修の到達目標

教育相談についての基本的な考え方や技法について、教職者として常識レベルの知識を説明できる。初任者として担任に求められる指導法や対応法についても、理解し説明できる。

## **7. 成績評価の方法・基準**

毎時間に提出を求めるミニレポート（60％）の提出状況、および期末レポート（40％）の提出状況および内容を合算して評価する。

## **8. テキスト・参考文献**

テキストとして市販の書籍等は使用しない。（文部科学省サイトに公開されている，生徒指導提要のデジタルテキストを使用する。入手方法は初回講義で解説する）。また，参考文献は講義中に随時解説する。

## **9. 受講上の留意事項**

相談技法についての簡単な演習（ワーク）の際は，積極的な参加が求められます。

## **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当しない。

## **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。